

日本共産党 区議会議員



石田 ちひろ

日本共産党品川議会控室 TEL 03-5742-6818
すずらん通り事務所 TEL 03-5462-2133

2011年12月18日
ちひろニュースNo.26

区民の **住み続けられる家**

区内中小業者の **仕事確保**



住宅リフォーム助成の復活求め

↓共産党が条例提案

品川区議会・第4回定例会が11月24日～12月7日で行われました。共産党は区民の住環境改善の支援と、区内建設業の仕事確保のための、『住宅リフォーム助成条例』を提案しました。

昨年の制度と今年の制度

昨年の制度は、工事費の5%・上限10万円が助成されます。

品川区が昨年、区内業者の仕事おこし・受注の拡大を目的に始めた「住宅リフォーム助成事業」。区民が区内業者に依頼して行うリフォームに助成金が出るものです。

対象工事は、バリアフリー

工事や火災探知器などの防犯・防災対策工事、エコ住宅改修工事などと一緒に行う一般のリフォームまでが対象でした。

一方、今年の制度は、制度の目的から区内業者の仕事おこし・受注の拡大は消され、対象工事もエコとバリアフリーに限定。工事費の10%・上限20万円と、助成額は上がりませんでした。

受注激減…昨年の制度に戻してほしい

昨年の助成件数110件、助成総額707万円、総施工金額2億5600万円。助成額に対する経済効果は、なんと36倍。それに対し今年11月の時点で助成件数は19件と激減。その大きな原因は、対象工事から一般リフォームを無くしたことです。



クローズの張替えや台所、トイレ、お風呂など、リフォーム工事で一番注文の多い工事が対象にならないのですから、利用したくてもできません。

建設業者からも「昨年の制度に戻してほしい」「このままでは、営業していけない」と悲痛な声があがっています。

決算委員会でも追及

そういった声も受けて、私は10月に行った決算委員会でこのことを問いました。(ちひろニュースNo.21にも掲載)

好評で効果も認めてる制度をなぜ無くしてしまったのか。エコとバリアフリーに限定してしまったのはなぜか。

区は、一番需要の高いエコとバリアフリーに絞って助成額も上げてレベルアップさせたと言います。しかしレベルアップさせたというだけの実績には程遠い状況：「現場の声を聞いて、見直しと(昨年の制度の)復活を！」と強く求めました。

さらに条例提案も

そして、第4回定例会で共産党は、

中小業者の仕事の確保・受注拡大を、目的にしっかりとかけつけた条例を提案しました。

否決はされましたが、他党派から「景気が非常に厳しい中、必要性について区として整備・検討していただきたい」「中小企業の方々への緊急対策を積極的に求めていきたい」など、中小業者への対策を求める意見も出されました。

区民も業者も喜ぶ制度を！

これから年末に向けて、みなさんも大掃除など、自宅のほころびなど目にしたとき、経済的に厳しい中でも区が助成してくれるなら、ちょっと壁紙張り替えようかしら…と思うのではないのでしょうか。

先日、地域の方が、「タンスをどかしたら、壁がカビていた…改修するにあたって区から助成が出るって聞いたけど、エコとバリアフリーだけで、うちは該当しなかった…」と残念そうに話していました。

全国でもこのリフォーム助成制度は広がっています。昨年度175自治体

から386自治体に1年間で2倍以上の自治体で進められています。

東日本大震災以後、不況はさらに深刻さを増し、中小業者の仕事確保がいつそう切実になっています。

引き続き、区民の住環境改善と地元業者の仕事づくりに力を注ぎます。

無料法律相談

とき：12月21日(水)

時間：18時～

場所：石田ちひろ事務所



弁護士さんと話しをうかがいます。
事前にご連絡ください。

日本共産党品川地区委員会主催

